



平成 25 年度会報第 4 号

平成 26 年 3 月 25 日

公益社団法人日本山岳会石川支部
支部長 中川 博人

2月の雪洞訓練は、参加者・積雪ともに不足で中止となりましたが、3月のカンジキ山行は悪天の中4名の方が頑張ってくれました。又「三百名山」の原稿執筆も皆様のご協力で期日までに終わることが出来ました。若手の講習会参加も有益な結果で、更なる会の充実を期待するものです。一年間の皆様のご協力に、深く感謝申し上げます。

山行・行事報告

1. JAC 全国安全登山普及講習会・立山雪崩講習会報告

本講習会は、JACが YOUTH CLUB を中心に、次期リーダー育成の一環として主に安全確保を中心とした技術指導に取り組んでいるものであり、今般、10月と1月の2回にわたり支部の推薦で参加できる機会を与えられたことは望外の喜びです。支部の名誉を汚さぬよう、以下のとおり頑張っておりましたので、報告します。

(1) 全国安全登山普及講習会

- ◆ 日 程 2013年9月19日～23日（うち、9月21日～23日に参加。23日は下山日）
- ◆ 場 所 国立登山研修所剣沢前進基地～剣岳
- ◆ 参加者 八十嶋 仁



初日、立山室堂のターミナルに集合すると、JACの旗を掲げた若者の集団に遭遇。見知らぬ間柄でしたが、すぐに意気投合し、剣沢の前進基地までの行程は楽しく談笑しながら進むことが出来ました。

1名のみでの参加は石川支部ぐらいで、ほかの支部はたいてい4～5人のパーティでしたが、食事なども分け合うことができ、却って交流が深まったように思います。

1日目は上級登山ガイドの資格を持つ講師に付き、前進基地でロープワークの基礎をみっちり練習。岩場での基礎的なアンカーの作り方、懸垂下降の方法などを始め、懸垂下降中に作業を行う際自分の体を仮固定するなど、一歩進んだ安全確保の方法についても学びました。今まで石川支部の講習や合宿である程度見知っていることもありましたが、

一からきっちり学び直すと自分のやり方にいかに荒が多く、今までいかに未熟な技術で登っていたかを思い知らされました。

2日目は剣沢前進基地を出発、3パーティに分かれて剣岳本峰南稜、八ツ峰、源次郎尾根を登ってそれぞれ剣岳山頂へと向かいました。私はかねてから登って見たかった源次郎尾根のパーティに入りました。難しい登攀はありませんでしたが、II峰からの懸垂下降はおよそ30メートル



の落差があり、高度感に肝を冷やしました。私はいちいちロープの結び方や確保器具の使い方にも時間がかかってしまいましたが、東京のユースクラブのメンバーは恐るべきスピードで下降していき、大いに刺激を受けました。バリエーションルートを制覇するにはパーティ全体の技術の習熟、スピードアップは不可欠であると感じました。

この研修では山行、夜の懇親会などを通じて非常に交流を深め（時には羽目をはずして）楽しむことが出来ました。ただ、どこの支部も若いメンバーは不足しているのが問題視されていました。若い人が参加するイベントを開いたり、大学山学部で講習会を開いたり、腐心していることが印象的でした。

(2) 立山雪崩講習会

- ◆ 日程 2014年1月25日～26日
- ◆ 場所 富山県 国立登山研修所本館
- ◆ 参加者 八十嶋 仁

雪山に登るうえで必ず考えなければならない、雪崩に巻き込まれることへのリスクを考える講習会に参加しました。9月の講習で顔を合わせたメンバーが多く、再開を喜びあいながらの講習となりました。

立山駅のすぐ近くの国立登山研修所本館に集合し、初日はまず雪崩とはどういうものかを、座講で学びました。登山研修所の東専門職を講

師に迎え、雪崩に実際巻き込まれた体験などを聞き、雪崩に遭わないためにはどのような判断・行動が必要なのか、雪崩に遭ったらどう対応するかを教わりました。

その後、研修所の裏の雪の斜面で、実際にビーコンやプローブ（ゾンデ）を使って雪崩で埋没した人を探す訓練を行いました。

★実際雪崩に遭ったらどうするか？

- ① 雪崩が起きた直後の斜面の安全を確認。再び雪崩が起きて二次被害に遭わないか。
- ② 警察への通報。
- ③ 埋没者の遺留品の搜索。

- ④ 同時に、ビーコンの反応を探り、埋没者の場所を特定。
- ⑤ プロブで埋没者を探し出す。手ごたえがあったら、そこに突き刺したままにする。
- ⑥ 雪をシャベルで掘る！数名で効率よく雪をかきだす、V字コンベア法を使用した。



初めてビーコンを使ってみました。電波の強さがビーコンの向きやメーカーの差異によって変動する為、正確に探すにはかなりの熟達が必要であることが分かりました。ちなみに、雪崩発生から15分を超えると、埋没者の命が助かる可能性が極めて低くなるそうです。上記の手順を15分以内に行うには、文字通り必死にやらなければ到底無理で、参加したメンバー同士活を入れ合いながら、額に汗して埋没者（役の人形）を探しました。

2日目は午前中に、雪の中から掘り出した要救助者を、ツェルトに包んで搬送する練習を行いました。手袋をしながらのロープワークは難しく、実際に人間を搬送する重みとともに、人命を助けることの困難さを痛感しました。午後には、1日目に行った搜索訓練の応用とし

て、小パーティに分かれての搜索を行いました。全体を通して感じたのは、雪崩に遭った時の生存の難しさです。雪山に挑もうとするならば、技術・体力ともに熟達しなければならない——改めて雪山登山の厳しさと充実感を知った講習でした。（文 写真 八十嶋仁）

2. 平成25年度指導員研修

- ◆ 日時 平成26年1月18日（土）～19日（日）
- ◆ 場所 医王山スポーツセンター
- ◆ 参加者 木原清 高田和彦 前川陽

石川県山岳協会の指導員向けに「雪山における危急時対策」として、医王山スポーツセンターで初日は教室で理論、二日目の午前は雪のフィールドで実技、午後は屋内で「シート搬送のための梱包技術」の研修が行われた。希望者は指導員に限定されず、そのおかげか妙齢女史の参加もあり、雰囲気も華やぎ結構楽しかった。講師は石川山協理事で県警山岳救助隊所属の亀田さんで、日ごろ現場で鍛錬しておられるだけ

あり、特に実技研修は勉強になった。初日の理論はロープの特性や確保論で、落下係数では、いつものごとく√の記号が出てきて頭が痛くなる思いであった。ロープワークも昨今は英語で統一されつつあり、英語名でサッと動作できなければパーティーについていけない。受講者の体験談では、立山天狗平山荘の磯野さんの雪崩や雪庇の安全回避については、長年の実践を通じた内容で分かりやすかった。

その他、ビーコンの使用方法は、翌日の屋外での事前実習ということで行われたが、翌日の屋外実習後の感想からいえば、前日の教室での事前実習は総合的な効果を高めるのにとっても有効だった。夜の食堂での懇親会は、各山岳会の諸事情や「年を取るとわがままで頑固になる」等の話題で盛り上がった。翌日は、雪の屋外で、ビーコンとプローブを使用した迅速な埋没者探索方法、非常時や休憩時に使用する各種雪洞の作成方法、雪面に縦穴を掘り雪の断層による雪崩のメカニズム、等について学んだ。午後からは屋内に戻り「シート搬送のための梱包技術」では、生命の瀬戸際にある遭難者の扱いや所持品（ツェルト、ロープ、スリング、カラビナ）による簡易タンカの作成方法を学んだ。

いずれもこれまで何回か同様の研修を受講したが、それでも受講の度に新たな発見があり、忘れていたことや、これまでベストとされていたことが進化していたりする。この種の研修は繰り返し受講し、学んだことは即、日ごろのイメージトレーニングに継続して反映させていくことが大切であると思った。

(文 写真：前川陽)



3. 支部事務局担当者会議

- ◆日程 平成 26 年 1 月 25 日（土）～26 日（日）
- ◆場所 JAC 本部 104 会議室 及び プラザエフ会議室（四谷駅前）
- ◆参加者 事務局長 前川陽

昨年の開催も 1 月下旬であったが、大雪でほくほく線が遅れ遅刻したが今年は雪も少なく定時に間に合った。本部の会議室はいつも狭くギチギチだが、昨年群馬支部が新設されたことで更に狭くなった感じだ。昨年改選された森会長以下新執行部の面々が正面に並ぶなか、以下の内容で会議が開催された。

1. 会長挨拶

- ・当面の課題は「会員増強と」「リーダー育成」である。
- ・YOUTH CLUB が着実に成果を発揮しつつあり頼もしく思う。
- ・群馬支部が 7 月に創設され支部は 32 となった。
- ・2 年後には会の創立 110 周年を迎えるが、海外の記念登山はピオレドールを狙える登山や学術調査登山等を中心としたい。

2. 会務報告〈各担当理事等から説明〉

- (1) 110 周年記念事業について

- ・海外登山の方向性・・・ピオレドールへの挑戦 学術調査登山 若手育成の海外登山。
- ・国際交流事業・・・国際山岳フォーラムと国際交流登山（場所は国内外を問わず）
- ・会員増強・・・・・・・・ユースクラブの支援、予算措置、入会促進
- ・支部参画事業・・・・◆支部企画海外登山の支援
 - ◆「三百名山」のツアー
 - ◆支部登山教室の支援（予算措置）
 - ◆日本4000山登山体系の集約
 - ◆全国登山講座（本部から発信）
 - ◆グレートヒマラヤ（インド・パキスタン・ブータン）トレール1,700kmを20～30に分割し、各支部で担当）

(2) 山の日制定について

8月11日を「山の日」として、山岳5団体を中心に国会へ働きかけを行っていく。

(3) 支部活性化活動について（支部活動を活性化するための知恵）

地域の新聞社や市町村、県警と連携して親子登山教室、里山登山教室、安全登山教室 自然観察教室等を開催する。

資金面では、公的機関や公益法人の助成金制度を活用する。

全国13の国立青年の家等を有効活用する。

(4) 家族登山普及WG（ワーキンググループ）について

ウェブサイト「親子で楽しむ山登り」（平成25年度版）の公開。

「親子で楽しむ山登り」として、各支部から全国32コース（石川は医王山）の登山おすすりコースの原稿を貰ったが、さらに各支部へ追加2コースの取材原稿を依頼し、100コースにしたい。詳細は6月ごろに連絡するが、原稿締め切りは9月を予定している。

(5) YOUTH CLUB活動について

YOUTH CLUB活動状況を一覧表で紹介されるが、かなりの実績が確認できる。

JACはこれまで、技術指導やリーダー育成を組織的にあまり実施してこなかったが、今後はこれこれらを充実させ、若い人にも魅力のある組織にしていきたい。

(6) 300名山編纂について

進捗状況と、原稿の未提出支部について公表あり。石川支部は提出完了済み。

(7) 日本山岳協会・東京都山岳連盟との新たな関係について

日山協へは、本部として加盟せず、協力関係を維持していく。支部と各県の連盟や協会との関係については、各支部の意向を尊重する。東京都山岳連盟についてはH25年度末をもって、退会する。

(8) 今後の支部長会議・支部事務局会議の開催について

支部長会議は従来の6月開催は取りやめ、年次晩餐会が開催される第1土曜日の10時より13時までの年1回とする。

支部事務局会議は、年1回とし、日程は9月中旬の土日連続とし、支部長の参加を望む。H26年度は9月20（土）～21日を予定で、会議の名称も変更予定。

(9) 国際山岳年プラス10シンポジウム2012報告書の配布について

(10) 第8回日本山岳会森づくり連絡協議会開催について

3月21日～22日 東広島市で開催 森づくりをしていない支部の参加も可能

(11) 団体登山保険について

(12) その他

- ・支部会計の手引き・改訂版について
- ・平成26年度支部事業計画・予算について
- ・平成25支部事業報告・会計報告書提出について
- ・支部からの要望・提案等について

先の支部長会議で各支部長から提出された要望・提案について紹介

・質疑応答

主なものとしては、支部会友の人数や取り扱いについて、参加範囲は自支部とし、他支部行事への参加は会員同行とする等、その他種々質疑が交わされた。

・第30回全国支部懇談会について（埼玉支部）

日時 平成26年10月18日（土）～19日

場所 秩父市 ナチュラルファームシティ農園ホテル

登山 両神山 or 武甲山 or 秩父の山並みが楽しめる低山

・第2回小島烏水祭の開催について（四国支部）

日時 平成26年4月13日（日）～14日（月）

場所 ホテル「花樹海」 峰山公園（高松市内）

登山 希望者は、日本三百名山の「三嶺」（1,893m）登山

・その他、事務連絡等や各種提出物の締切期限等の説明

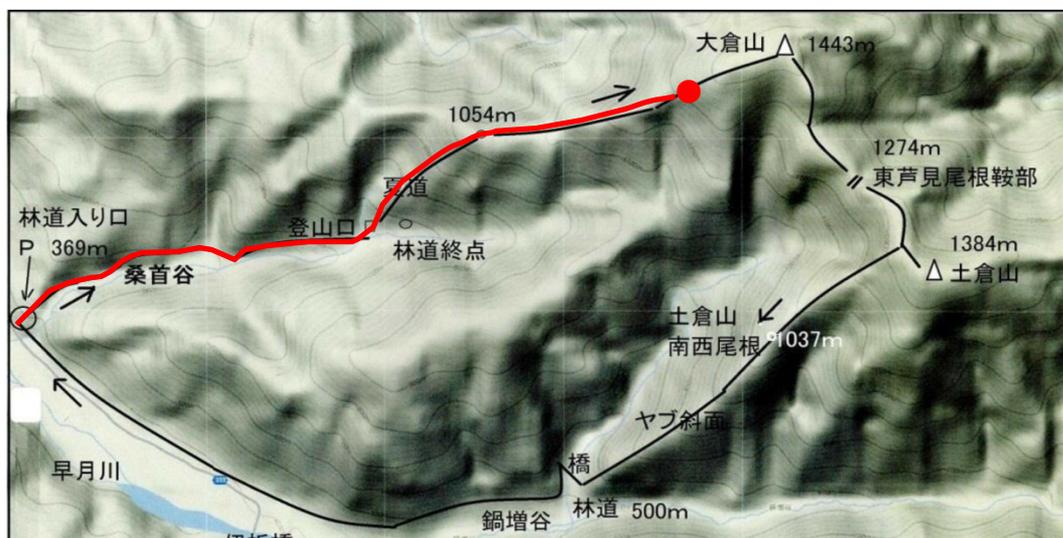
（文 前川陽）

4. カンジキ山行

◆日程 平成26年3月16日（日）

◆場所 大倉山（1443m）～土倉山（1384m）

◆参加者（4名） CL 西嶋鍊太郎 関本邦晴 池本順平 小畑聡子



金沢 4 時 10 分出発、関本さんの車に乗り合わせ、金沢森本 IC～立山 IC～早月川剣橋の先の桑首谷林道へ向かう。山頂からは展望が良く、劔岳が望めるとの事。林道沿いの大倉山登山口の看板の前にて車を止め 6 時にカンジキを履いて歩き始める。しばらく林道歩きが続き、林道沿いには所々に砂

桑首尾根 (1054m) に 10 時過ぎ着、ここで小休止。遠くに大倉山山頂が見えてきた。予定より時間がかかり、土倉山は無理であろうが、大倉山を目指そうと歩き出す。雪もチラつき尾根に出てからは風も冷たくなり、悪戦苦闘する。ざらざらの雪の上に湿気が多い新雪が積もり、傾斜がきつくなると足場を作ろうにも崩れて、前に進まない。

11 時半、風の当たらないところで、昼食休憩を取る。その後、1 時間歩き進み、あともう少しで山頂というところで、ナイフリッジが続く稜線に出る。



防の堰堤や、小さな雪崩の跡が見かけられた。1 時間歩いた頃、別の林道と十字に交差する。天候は曇り、寒くもなく快適に歩いていたが標高が高くなるとともに少しずつ雪質が変わってきて、歩きづらくなり、先頭も交代しながら歩く。スキーを担いだ単独の男性が追い抜いて行かれた。



視界は真っ白、雪崩のおきやすい雪質、時間の余裕もない為この先は危険とリーダーの判断に全員納得し、12 時 40 分 1345m 地点で、記念撮影をしてから U ターンすることになる。

帰りも慎重に下る。途中まで私たちの足跡を辿ってきたと思われる、長靴の足跡が複数あった。今日会ったのは、この足跡と、スキーの方 1 人のみ。残念ながら、劔岳には会えませんでした。貴重な体験をさせていただきました。カンジキや、ピッケルの使い方、雪道の歩き方を教わりながら、メンバーの皆さんに助けられ、16 時 35 分下山無事下山することができました。

(文・写真：小畑聡子)

今後の行事予定

参加希望者は、申込期日までに担当者もしくは事務局（前川：080-1952-7298
メール：maekawayo@gmail.com）まで申し込みください。

1. 「平成 26 年度石川支部定期総会」開催のお知らせ

恒例の定期総会を以下のとおり開催します。普段ご無沙汰の皆様も、是非ご参加いただき、支部発展に向けた叱咤激励をいただければ幸いです。

会友の方も議決権はありませんが、傍聴参加は自由ですので、多数ご参加ください。

- ・日時 平成26年4月19日（土）～20日（日）
- ・場所 「白山里」 白山市瀬波
Tel 076-255-5998
- ・総会 4月19日（土） 17時～
- ・懇親会 18時半～（宿泊）
- ・会費 1万1千円（懇親会&一泊二食）
- ・申込 4月10日（木）までに事務局（前川）までメール（maekawayo@gmail.com）または電話（080-1952-7298）にてお申込みください。通常は、「総会、懇親会（一泊二日）」のセットですが、いずれかの場合は、その旨、必ず明記願います。
- ・委任状 会員で欠席される方は支部長に議決権を委任する旨を記載したメールを事務局（前川）まで返信願います。メールの印刷をもって委任状とします。
なお、メール環境のない会員の方へは、返信用はがきを本会報に同封します。
いずれも4月10日（木）までに事務局（前川）必着で返信願います。

*委任状記載内容

⇒ 私は支部長に平成26年度石川支部定期総会に関する一切の権限を委任します。
平成26年〇月〇日 （氏名）石川支部夫

*支部定期総会主要審議案件（参考）

- ・H25年度事業報告、会計報告
- ・H26年度事業計画案、予算計画案・支部財産目録
- ・役員改選について
- ・その他（親子登山推薦2コースについて）

お知らせ

1. ～冠松次郎生誕 130 年～ （講演会と山岳映画上映）

日本山岳会資料映像委員の中野守久氏から勤務先の東京都北区の「北区飛鳥山博物館」で冠松次郎に関する貴重なイベントの開催案内が以下のとおりありました。連休等で上京される機会があれば、是非ご覧ください。

～冠松次郎生誕 130 年～

「冠松次郎と 学芸官 中田俊造」
—戦前期における文部省山岳映画—

◆学芸員が語る山岳映画上映会

- ・日時 5月6日(火・祝) 14時～16時
- ・場所 東京都北区王子1-1-3
北区飛鳥山博物館 講堂 TEL: 03-3916-5900
- ・内容 ①昭和2年文部省製作「黒部峡谷探検」 (モノクロサイレント)
②昭和5年文部省製作「鹿島槍ヶ岳と下廊下」 (モノクロサイレント)

⇒展示場でも紹介している上記2本の映画について、担当学芸員が映画の進行に合わせて生解説を試みたあと、山岳映画に詳しい専門家と対談する予定。

- ・定員 80名
- ・参加費 無料
- ・申込 往復はがきで当館まで4月24日(木)必着(申し込み多数の場合は抽選)

*特別展示室・ホワイエ＝観覧無料 10時～17時 休館日/毎週月曜。但し5/5は開館
⇒ 期間： 3月6日 ～ 5月6日

以上